

府中市協働事業 第三者評価シート

評価結論

S

事業名称	市内公園を活用したコミュニティガーデンの創出
事業実施者	act634 府中/都市整備部公園緑地課
事業目的	公園や街の美化を「自分ごと」として捉える市民を増やす。公園を地域のコミュニティを再生・創出していく場として再生する仕組みづくりを行う。
事業内容	府中コミュニティガーデン講座の実施
事業目標	講座を通じて、今後市内にコミュニティガーデンを広げていく人材育成及び仕組みを構築する
制度名	行政提案型協働事業

1 評価結論	S:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるなど、協働事業として優れており、更なる発展が期待できる。 行政と団体が同じ目線で課題を認識し役割分担を行い、事業を実施できていたことが評価できる。また、市民が自主的に活動できる協働の仕組みづくりがされており、将来的に各地で展開できる持続可能な事業として期待できる。
2 事業について	市民自身による入念な現状把握と協働による作業の進め方など団体としてのノウハウ、実績が伴っており、新たに活動を展開した地域の事例や特徴を、他のエリアと比較し、仕組構築を検討するなど新たな視点と解決方法を模索できている。
3 協働の視点について	行政と団体が共通認識を持って課題解決に取り組めており、お互いの強みを生かした成果をあげられた。1年目に関わりを持った自治会連合会との連携、地域住民と親しくなるための努力が垣間見えた。また、団体間の情報共有についてはYouTube やオープンチャット等の SNS を有効活用するなどの工夫がなされていた。
4 今後の展望や様々な主体間との連携	市民が自主的に活動できる協働の仕組みづくりがなされており、講座修了生がインフラ管理ボランティア制度「府中まちなかきらら」に登録して活動を継続するなどの持続性や連携の可能性が生まれた。一方で、コミュニティガーデンの普及のための講座手引きを作成するには、各地域での事例データが不足するとの報告があったため、今後も事業を継続する中で、人材育成及び仕組みの構築により、本事業を普及啓発していくことを期待する。

【評価結論】

S:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるなど、協働事業として優れており、更なる発展が期待できる。

A:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるが、課題への対応など一部改善することで、更なる発展が期待できる。

B:協働の原則に基づき取り組んでいるが、一部又は一方に理解のずれがあるため、より一層意識して協働事業に取り組むなど、一部改善の必要がある。

C:協働事業としての認識が、一部又は一方に不足しているため、協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

D:事業目的、協働の必要性、相互理解及び情報共有・課題の共有ができておらず、協働事業としては不十分であるため、協働事業として取り組む必要性があるかなど、再度検討する必要がある。

府中市協働事業 第三者評価シート

評価結論

B

事業名称	うたうまち府中プロジェクト
事業実施者	うたうまち府中プロジェクト実行委員会/文化スポーツ部文化生涯学習課
事業目的	アウトリーチや音楽会を実施することで、府中市の音楽を取り巻く環境を広げることに貢献
事業内容	幼保施設や小学校へのアウトリーチ活動及び音楽会を実施
事業目標	多くの市民に参加してもらい、音楽があふれる街を目指す
制度名	市民提案型協働事業

1 評価結論	B:協働の原則に基づき取り組んでいるが、一部又は一方に理解のずれがあるため、より一層意識して協働事業に取り組むなど、一部改善の必要がある。 演奏者の個性は活かされていたようだが、「ロゴプロジェクト」普及活動に大きく課題が残った。音楽は多様な連携が実現できると思われるため、府中市内の音楽活動団体との連携を視野に入れるなど、より効果的に事業展開する余地があったように見受けられた。
2 事業について	アウトリーチ活動に関して、開催要望に対して演奏会の開催回数も少なく、イベント実施ノウハウが不足していた印象がある。事業普及のための「ロゴプロジェクト」については、PR 活動自体ができておらずロゴが市内に認知されていない印象が強い。他の団体や行政等との協働により、お互いの強みを生かした方法の検討が必要である。
3 協働の視点について	市内の校長会との連携により、小学校、保育園と繋がったことは事業に幅ができ、評価できる。行政と連携が深い社会福祉協議会、わがまち支えあい協議会等との連携を通して、より広域的な活動にすることで魅力的な事業になる。また、団体そのものが成長途中、かつコミュニケーションが不足しているように見受けられたため、お互いの立場を理解した工夫を図ってほしい。
4 今後の展望や様々な主体間との連携	音楽という可能性を用いて、団体会員とのコミュニケーションを引き出すだけでなく、他の音楽団体等と協働することによる相乗効果を期待したい。また今回の事業の検証をしていただき、活動の幅を拡大していくことや事業の継続に向けて取組み、府中市が音楽あふれる街となることに期待する。

【評価結論】

S:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるなど、協働事業として優れており、更なる発展が期待できる。

A:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるが、課題への対応など一部改善することで、更なる発展が期待できる。

B:協働の原則に基づき取り組んでいるが、一部又は一方に理解のずれがあるため、より一層意識して協働事業に取り組むなど、一部改善の必要がある。

C:協働事業としての認識が、一部又は一方に不足しているため、協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

D:事業目的、協働の必要性、相互理解及び情報共有・課題の共有ができておらず、協働事業としては不十分であるため、協働事業として取り組む必要性があるかなど、再度検討する必要がある。

府中市協働事業 第三者評価シート

評価結論

A

事業名称	府中市・共生タウン化プロジェクト
事業実施者	府中視覚障害者福祉協会・福祉保健部障害者福祉課
事業目的	府中市の市民・行政・民間事業者に対して「合理的配慮の提供」に対する理解を促し、府中市における共生社会の実現に向けた様々な取り組みを推進する。
事業内容	①意識啓発セミナー ②機器の展示会 ③共生タウン化実証実験 ④シンポジウム
事業目標	合理的配慮の提供に対する市民・行政・民間事業者の理解促進
制度名	市民提案型協働事業

1 評価結論	A:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるが、課題への対応など一部改善することで、更なる発展が期待できる。 事業目的が明確であり、実証実験、アプリ開発等の新規事業への挑戦は評価できる。しかし、イベント当日の運営や行政との協働について一部改善が必要である点などがあった。今後は他の様々な主体と連携を検討するなど、障害者への合理的配慮についてより深く理解してもらえるよう取り組むことに期待する。
2 事業について	視覚障害がある方も府中のまちを歩けるようにしたい、という課題が明確である。また、アプリの開発に挑戦し取り組んだことも協働による斬新性が高く評価できる。
3 協働の視点について	社会福祉協議会、自治会との繋がりを持ったことで、団体の志気があがったように見受けられた。しかし、行政との連携不足による広報や事業実施の準備不足の印象がある。イベント開催時における行政側のサポート体制、配慮が不十分だったように見受けられたため、より行政側が「協働」し、事業を進行すべきだった。
4 今後の展望や様々な主体間との連携	団体が行政のサポートを受け社会福祉協議会との連携を深めていき、合理的配慮について民間事業者、市民に理解してもらえるような取組を強化して取り組むことに期待する。

【評価結論】

S:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるなど、協働事業として優れており、更なる発展が期待できる。

A:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるが、課題への対応など一部改善することで、更なる発展が期待できる。

B:協働の原則に基づき取り組んでいるが、一部又は一方に理解のずれがあるため、より一層意識して協働事業に取り組むなど、一部改善の必要がある。

C:協働事業としての認識が、一部又は一方に不足しているため、協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

D:事業目的、協働の必要性、相互理解及び情報共有・課題の共有ができておらず、協働事業としては不十分であるため、協働事業として取り組む必要があるかなど、再度検討する必要がある。

府中市協働事業 第三者評価シート

評価結論

B

事業名称	ヤギがつなげるまちづくり
事業実施者	新町小のたつと、市民協働推進部協働共創推進課
事業目的	ヤギや小動物を介した地域交流イベントの実施やふれあいの場をつくり、色々な人が交流することで、地域コミュニティの活性化を促す
事業内容	ヤギや小動物を介した地域交流イベントの実施やふれあいの場をつくり、色々な人が 交流することで、地域コミュニティの活性化を促す。
事業目標	様々な主体と連携する仕組みづくりを行う。
制度名	市民提案型協働事業

1 評価結論	B:協働の原則に基づき取り組んでいるが、一部又は一方に理解のずれがあるため、より一層意識して協働事業に取り組むなど、一部改善の必要がある。 ヤギ・小動物のふれあいイベントについて、参加者アンケートの満足度が高かったことは評価できる。ヤギの活用をきっかけに、高齢者同士の交流機会の創出や災害時の避難方法の周知など、複数の目標があるため課題認識や目的の共有を徹底し、今後も協働の手法により動物にも優しい、人にも優しい事業に取り組むことに期待する。
2 事業について	ヤギ・小動物のふれあいイベントは市民からも好評、かつ地域との連携も図れており、府中市の強みとなりうる事業である。しかし、災害時における動物との共生の大切さに関しては目的・目標を正しく定める必要がある。
3 協働の視点について	シルバー人材センター、東芝等との繋がりを持てたことは評価できる。事業が開始された目的、意義が実践と結びつかないが、活動自体は大変良い。予定されていたイベントが実施できなかったことから、今回の検証結果を反映し、協働による相乗効果が生まれるよう工夫していただきたい。
4 今後の展望や様々な主体間との連携	ヤギ・小動物のふれあいイベントの実施数を増やし、事業に参画する市民と、地域貢献の視点で参画する企業等との連携に向けて取り組み、地域コミュニティの創出や活性化に繋がることを期待する。

【評価結論】

S:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるなど、協働事業として優れており、更なる発展が期待できる。

A:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるが、課題への対応など一部改善することで、更なる発展が期待できる。

B:協働の原則に基づき取り組んでいるが、一部又は一方に理解のずれがあるため、より一層意識して協働事業に取り組むなど、一部改善の必要がある。

C:協働事業としての認識が、一部又は一方に不足しているため、協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

D:事業目的、協働の必要性、相互理解及び情報共有・課題の共有ができておらず、協働事業としては不十分であるため、協働事業として取り組む必要性があるかなど、再度検討する必要がある。

府中市協働事業 第三者評価シート

評価結論

A

事業名称	循環型再生アクリル板「リアライト」を使用した SDGs 普及啓発事業
事業実施者	緑川化成工業株式会社・政策経営部政策課
事業目的	SDGs ポスターコンクールの実施に当たり使用する物品等を、回収したアクリル板を原料とするリアライトで作成する。また、環境に配慮した手法による作成までの一連の流れを周知することで、SDGs の啓発を行う。
事業内容	環境に配慮した手法により、ポスターパネルと SDGs ポスターコンクール参加賞としてのフォトフレーム、SDGs 啓発物品の定規をリアライトで作製。府中市民協働まつりにおいて、SDGs ポスターコンクールの入賞作品及びリアライトの展示、表彰式を実施。展示会場では、アンケートを実施し、回答者へは SDGs 啓発物品の定規を配付。
事業目標	市民の SDGs に対する関心・意識を高める。
制度名	テーマ型価値共創促進事業

1 評価結論	A:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるが、課題への対応など一部改善することで、更なる発展が期待できる。 SDGs に取り組む市民を増やし、持続可能なまちづくりの実現に繋げる考えは素晴らしい。 SDGs ポスターコンクールの申請件数が少なかったため、PRに力を入れるなどの工夫を行うことで啓発と実践が相まってより多くの市民に効果を還元できると共に、協働の手法でより事業を最大化していくことに期待する。
2 事業について	市民協働まつりに参加することで、行政連携に着手できたように見受けられた。 団体、行政双方で課題の共有は十分できていたものの、行政内の課題だけでなく、府中市内で捉え、行政以外の主体とも事業展開することでより相乗効果が生まれる事業になるとよい。
3 協働の視点について	行政と民間の「協働」部分が弱いように見受けられたが、SDGs の啓発だけではなく、実際に環境に配慮した手法で啓発物を作成するという実践も伴っており、その点は評価できる。 行政と課題や解決方法を共有し、再生アクリルを活用した製品のバリエーションの検討や、入園式や入学式等のタイミングで配布するなど、改善に向けて工夫していただきたい。
4 今後の展望や様々な主体間との連携	協働の手法を含め、改善を繰り返すことにより広範囲で精度の高い事業、普及啓発をすることに期待する。

【評価結論】

S:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるなど、協働事業として優れており、更なる発展が期待できる。

A:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるが、課題への対応など一部改善することで、更なる発展が期待できる。

B:協働の原則に基づき取り組んでいるが、一部又は一方に理解のずれがあるため、より一層意識して協働事業に取り組むなど、一部改善の必要がある。

C:協働事業としての認識が、一部又は一方に不足しているため、協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

D:事業目的、協働の必要性、相互理解及び情報共有・課題の共有ができておらず、協働事業としては不十分であるため、協働事業として取り組む必要があるかなど、再度検討する必要がある。

府中市協働事業 第三者評価シート

評価結論

A

事業名称	コミュニティバスデジタル化促進事業
事業実施者	RYDE 株式会社・都市整備部計画課
事業目的	将来的にコミュニティバス「ちゅうバス」をデジタル化し、イベント・商業施設との連携やデータ分析を実施するための検討の一環として、1回乗車無料分を含めたデジタルチケット販売等の実証実験及びアプリ上での利用者アンケートを行う。
事業内容	コミュニティバス「ちゅうバス」のデジタルチケット販売 利用者アンケート デジタルチケットの利用データ分析
事業目標	将来的なデジタル化に向けた課題、利用者の意見、利用傾向等の把握
制度名	フリー型価値共創促進事業

1 評価結論	A:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるが、課題への対応など一部改善することで、更なる発展が期待できる。 利用者アンケートでは RYDE アプリの使い勝手の向上が挙げられており、市が展開する他の課のアプリ(ごみ分別アプリ等)との一体化の検討など、改善の余地がある。今後、路線バスの再編に向けて、買い物困難者などの不利益を被っている市民への還元、商店街を通じての地域活性化を図るような取組みに期待する。
2 事業について	乗客データの収集による課題の抽出が可能で、今後の路線バスの再編計画等の検討材料になり得る。課題解決には至っていないが、コミュニティバスのデジタル化への挑戦は中長期的な視点での市民への還元が期待でき、評価に値する。
3 協働の視点について	事業開始前に市民への利点・欠点を団体と行政ですり合わせを行ったのかが疑問である。また、行政との「協働」が弱く、単なる団体と京王バスとの連携のような印象が強い。行政が当該データを有効に活用し、市内で開催される地域イベントや各商店との連携をすることで、市民への利点や公益的な価値が見えてくることはよい。
4 今後の展望や様々な主体間との連携	今後の展開については説明がなかったが、府中市内商店街とのクーポン券等での連携、買い物困難者への支援などを通し、地域活性化や誰もが住みやすいまちに繋がることを期待する。ただし、本事業の効果が出るのには時間がかかると思われる。

【評価結論】

S:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるなど、協働事業として優れており、更なる発展が期待できる。

A:協働の原則に基づき適切に取り組んでおり、様々な主体間との連携や今後の展望に向けて積極的に取り組む意欲があるが、課題への対応など一部改善することで、更なる発展が期待できる。

B:協働の原則に基づき取り組んでいるが、一部又は一方に理解のずれがあるため、より一層意識して協働事業に取り組むなど、一部改善の必要がある。

C:協働事業としての認識が、一部又は一方に不足しているため、協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。

D:事業目的、協働の必要性、相互理解及び情報共有・課題の共有ができておらず、協働事業としては不十分であるため、協働事業として取り組む必要があるかなど、再度検討する必要がある。